

住民ボランティアによるスーパー 立ち上げから学ぶ地域活性化の取り組み

－「キラリやまの」開店のケース－

小 林 正 和

はじめに

広島県福山市山野町は、福山市の北部に位置し、過疎化が進む町である。この町で平成18年3月末に唯一のスーパーが閉鎖した。それ以降住民は約10キロ離れた福山市加茂町や隣の岡山県井原市などへ買い物に行かざるを得なくなったのである。他に買い物ができるのは週に1回軽トラックで販売に来る業者のみであり、車を持たない高齢者は買い物にも行くことができず、これからどうしようかと大変悩んでいた。このスーパー撤退の話をJA山野町女性部の有志が聞き、跡地を利用して新スーパーを立ち上げようと計画したことが今回の論文の内容である。

今回のケースの問題点は、過疎化の問題、JAの経営課題上の問題、更には地方自治体の行政の問題等が複合して起きたものであるが、この論文では過疎化の問題を中心に捉えた視点で眺めて見ることと、一度撤退したスーパーを住民有志がボランティアで再度立ち上げたプロセスを探ることによって、近年同じような高齢化・過疎化が進む町の活性化の参考にできるのではないかと考えるものである。

第1章 福山市山野町の過疎化の現状

1-1 全国の過疎化・高齢化の実態

国土交通省のアンケート調査（平成18年4月時点）¹によれば、山あいなどの過疎地域は人口減少や高齢化が進み、今後全国過疎地域の集落数62,271集落の内2,219集落（3.6%）で人が住まない消滅状態となる恐れがあり、このうち422集落は今後10年以内に消滅するという。中国地方で消滅の恐れがあるのは12,550集落の内498集落で、今後10年間に消滅する恐れがあるのは73集落である。更にこの内65歳以上の高齢者が半数以上を占める集落は、全体の12.6%の7,873集落あり、高齢化が進んでいるということである。

この過疎地域とは、平成12年4月に施行された過疎地域自立促進特別措置法の第2条の過疎地域要件に指定されたもの²で、昭和35年から平成7年の人口減少率が30%以上等の人口要件や平成8年度から平成10年度の3か年平均の財政力指数が0.42以下の財政力要件等に該当する地域である。

1-2 山野町の人口、場所等

福山市山野町は、福山市の北部に位置し、広島県神石高原町、岡山県井原市に隣接する世帯数359戸、人口956人（平成17年4月末時点）の人里離れた小さな町である。65歳以上の高齢者が414人（約43%）³も占める高齢者が多い町である。この山野町には龍頭（りゅうず）峡と猿鳴（えんめい）峡という自然に恵まれた山野峡県立自然公園があり、四季折々にはキャンプ場もあることからアウトドアレジャーが満喫できる場所である。

1 中国新聞 平成19年2月20日号

2 総務省自治行政局過疎対策室 HP

http://www.soumu.go.jp/c-gyousei/2001/kaso/kaso_gaiyo.html

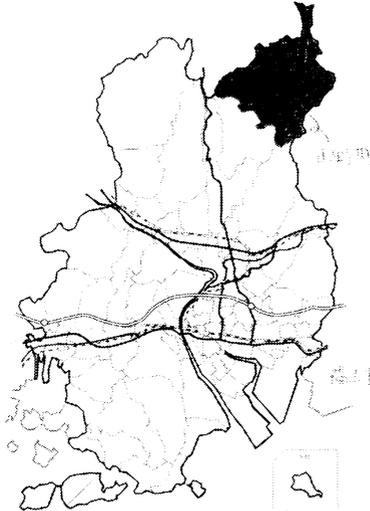
3 福山市HP

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.shiseijoho/shisei/mati.xls>

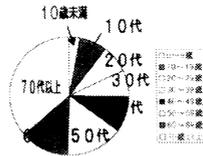
図 1 山野町の位置

山野町ってこんなところ！

私たちの住む山野町は、福山市の最北端に位置し、高梁川の支流である小田川と山々に囲まれた自然豊かな静かな町です。
とりわけ山野町一帯は、県立自然公園にも指定されています。落差60mの龍頭の滝や曲段の滝、猿鳴峠などがあり、四季折々の自然が織り成す風景を楽しむことができます。



山野町の人口	940人
世帯数	361世帯
高齢化率	44%
(65歳以上 411人)	
(2006年11月現在)	



出典：キラリやまの作成

第2章 JAスーパー山野店の閉鎖から「キラリやまの」の开店まで

2-1 JAスーパー山野店

この山野町では、日曜生活品を販売するスーパーといえば福山市農業協同組合（JA福山市）福山北地域山野支店（以下JA山野支店と呼ぶ）のグリーン山野店（以下JAスーパー山野店と呼ぶ）しかなかった。山野町の隣の加

茂町まで約 10 キロも離れており、この間には民家はなく山道とトンネルを抜けてこなければいけない町である。

車を運転できる若い住民は、勤務先が福山等で生活するにはほとんど困らないが、車を運転できない高齢者にとっては、このスーパーが生活用品を買う唯一の店であり、かつ集いの場でもあった。つまり、このスーパーがなくなると、次の 3 点で困ることとなる。①食材店が山野町内からなくなってしまう。② 10km 以上離れた加茂・井原方面へ買い出しに行かないといけないが、高齢者だけの世帯が多く買い出しが困難となる。④地域のふれあいの場がなくなってしまう、等である。

しかし近年の J A 福山市は合併を進めており、収益構造の強化をしている途中であった。そのため経営が不振の J A スーパー山野店は 1 年間の経過措置として存続し、平成 18 年 3 月末に閉鎖と決定された。この J A スーパー山野店は、J A 山野支店の中にあり、広さ約 150m² で日用品、野菜等を中心に販売していたが、閉店の前には新鮮な肉、野菜などは売れず、日商が 5 万円を切ることもあるなど、非常に苦戦していたという。

2-2 「キラリやまの」の立ち上げ過程

平成 18 年 2 月初めに、わずか 1 か月半後の 3 月末で J A スーパー山野店が閉店することを聞き、町民は驚いた。何とかしないとこのままでは山野町は大変なことになるとの認識のもと、2 月 15 日と 3 月 26 日に J A 山野支店と山野町内会総代が集まり協議をした。そこでは、山野町内会総代の厳しい意見が出された。一部を紹介する。

【2 月 15 日の会合】

「山野地域に店舗が無くなるということは、地域住民特に老人に取っては、買い物をする場所がなくなるということです。そこで J A として店舗を残す方

向での手助けをして欲しい。私たちはパートを雇っても自主的な運営を行うつもりです。」

「それよりJAが光熱費、電話代、家賃等どこまで協力して頂けるのか提案してください。また、現在費用がどの程度かかっているのか連絡して欲しい。とにかく、地域を守るために店舗が必要だということです。」

【3月26日の会合】

「JAは山野の地域に対してどのように考えているのか？店舗を半分でも貸してもらえないのか？これでは生活できない。地域に死ねということですか！地域を助ける気はないのか。」

「この様な方法をしていると、農協はおしまいです！今、私達が言っていることは、農協の組合員の話聞いて欲しいということです。自助努力をします。店舗を貸してください。赤字の時は私達で考えます。」

「山野には、どのような形でもいいから店舗を残して欲しい。農協の母体は誰なのかを、よく考えてください！」

「地域を守るために、是非とも店舗の貸し出しを認めて欲しい！」⁴

これらの会合の結果、4月中旬にJAより、店舗の約半分の75m²を借用する承諾を得ることができた。ここから新スーパー出店への動きが始まる。

運営については、JA福山市・福山北地域女性部山野支部（以下JA女性部山野支部と呼ぶ）の門田美枝子支部長が中心となり、5月中旬には店の運営をボランティアで行うことを決めた。ちょうど福山市が福山市市政施行90周年記念事業「ふくやまの魅力づくり事業」の募集があったことから、応募

4 出典：JA福山北地域本部駅家グリーンセンター「グリーン山野店の店舗継続についての報告書」（18.3.26）引用

してみることに。7月に審査に通り、補助金100万円をいただくことになった。

しかし、門田支部長を中心としたJA女性部山野支部の役員メンバー19名は、ほとんど50歳以上の専業主婦で店舗レイアウト、業者との交渉、仕入れ、販売方法などの店舗運営が全く分からない。そのため6月初めに福山市主催の起業塾セミナーへ申し込み、6月中旬から3回受講し、ノウハウを勉強することになった。この講師は筆者であるが、それだけでは足りないので、筆者を中心としてスーパー専門の経営コンサルタント等を集め、ミーティングを繰り返し、店舗設計、仕入れ、業者との交渉などを行った。

このような中、様々な問題が浮上する。組織の問題では、6月初めに「今後の取り組み等について」の会合を開催した。ここでは、規約や運営組織を作ったり、店舗の運営についての協賛金、取扱品目、店当番、営業日・営業時間等についての協議を行った。協賛金を一口3000円で目標100万円を予定していたが、最終的に約280件の250万円ほどが集まった。山野町の住民の期待がそれほど大きいということである。

店舗内容については、レジスターを約70万円で購入する際には、品数と比べて高額過ぎるのではとの意見があったが、JA女性部山野支部メンバーの「便利なので」という意見で購入を決定した。店舗レイアウトも実際に棚を入れる段階で、商品点数が多すぎ在庫の不安があるということで急遽半分にしたり、高齢者の集まる場が必要だとの意見でスペースを作ったりと、見直しが相次いだ。更に、総菜を作り、販売するということについては、費用に見合うだけの体制が作れるのかという問題が出たが、最終的にしてみようということになった。取り合えず試してみて、不都合があれば直していこうということである。

当初、8月1日を開店予定日としていたが、店舗改築が7月中旬以降にずれ込んだことや商品の調達、総菜部門のチェックなどとても間に合わないということで、1週間後の8月7日を開店日とした。6月からはほとんど毎日会議を行っていたという。

またJA女性部山野支部のメンバー（8月6日以降は「キラリやまの」メンバー）は、開店の案内チラシにこう書いている。

「長かった梅雨も明けようとしています。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。平素から、山野地域発展のため、格別のご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、今年3月のJA山野支店の店舗廃止に伴い、町民は大変不便な暮らしを強いられることとなりました。早くなんとかしなくてはの思いに、JA女性部が地域を守る取り組みとして、山野の皆様をはじめ、福山市行政、福山大学、JA福山市等、関係者の方々のご支援、ご協力により独自の店舗を立ち上げることに致しました。

過疎化の歯止め、一人暮らしの高齢者の方への対応等、多くの課題が山積みしていますが、この活動を通し、地域でつくる店、育てる店として未熟ながら頑張る覚悟です。今後ともご支援、ご指導を心よりお願い申し上げます。⁵⁾

JA女性部山野支部の人たちの思いが良く表されている内容である。

5 出典：「キラリやまの」メンバー作成の開店案内チラシより引用

2-3 店舗概要

「キラリやまの」の店舗概要について述べてみる。

店舗名は、この時期に放映されていたNHKの朝ドラマ「純情きらり」の主人公のようにひたむきに、そしてキラキラと私たちも地域も輝きたい、との思いからこの店舗名をつけたという。

代表は、門田美枝子支部長がそのまま、約30人が参加している。資金は、福山市補助金100万円、借入金100万円、協賛金約250万円等で行う。店舗改装費用300万円はJA福山市が負担したが、備品・経費代として別に約110万円ほどかかったという。

店舗は、75m²で総菜室、冷蔵庫、冷凍庫、高齢者の集いの場を設けている。商品は、生鮮食品、一般食品、雑貨、総菜、そして町内・近隣市町村の農産物・加工品・手工芸品である。店当番は約30名ほどおり、半日ずつ2人で日々交替する。総菜作りは3人、4グループで日替わりで行っている。営業時間は、平日は9時から18時まで、土・日・祝は8時から12時までで、休日は毎週水曜日である。協力員は40名から50名ほどおり、販売方法は店舗販売が中心で高齢者・遠隔地住民には電話注文による宅配をしている。

図2 開店前と開店後の店舗外観① -開店前-



出典：著者撮影

図3 開店前と開店後の店舗外観② -開店後-



出典：著者撮影

2-4 福山市の援助

平成18年度に福山市では、福山市市政施行90周年記念事業として市民提案型のまちづくり事業「ふくやまの魅力づくり事業」を立ち上げ、公募した。今回「キラリやまの」はこれに応募し、タイミングよく福山市の援助金を得ることができ、店舗オープンに非常に役に立ったという。

この「ふくやまの魅力づくり事業」の目的は、「福山市協働のまちづくり基金を活用し、市民と市の協働によるまちづくりを推進するため、一定の助成をすることにより、福山市の魅力の創出の機運を醸成し、福山市民等が自主的に企画・実施する事業を促進することを目的とします」⁶となっている。

事業は、「ふくやまの魅力づくり事業」と「キーワードモデル事業」の2つあり、応募期間は、平成18年5月15日から6月14日までの1か月間である。対象となる団体は、福山市内に活動拠点を有し、原則として1年以上活動実績がある団体、5人以上参加、福山市と協働により取り組むことができるものである。補助金は、補助対象経費の2分の1で、50万円以上の上

6 出典：ふくやまの魅力づくり事業 募集要項より引用

限 100 万円である。

今回の「キラリやまの」は「地域食材・食品販売ふれあい事業」として応募し、計画の概要等は、以下の通りである。

『計画の概要』は、「山野町には食材食品を販売する店舗がなくなった為、地域の女性部が中心となり、食材食品販売店舗を開設し、ボランティア的に食材の販売・高齢者宅への注文販売等を行い、地域の交流を深める。販売品目は山野町の生産物はもとより、近隣市町村で生産された物を中心にし、ふるさと料理も作って販売する。食の教育に努め、食と健康についての学習を深める」、となっている。

『事業の目的と効果・特徴』は、「1)利益目的では店舗は成り立たないため、地域女性部が中心となり、ボランティア的に地域食材・ふるさと食品を販売する。2)高齢者宅には電話注文等により、宅配をし交流を深める。3)山野町及び近隣市町村の産品を中心に販売し、地域間交流を深める。4)食と健康についての学習や地域産品の料理講習を行ったり、食材通信等を配布する」⁷である。

この補助金 100 万円は、レジスターの購入（約 70 万円）にあてたという。

第 3 章 開店から現在へ

3-1 開店後半年の内容

開店後、平成 18 年 12 月末時点での売上げは、1,180 万円で利益は 280 万円ほどになった。日商約 10 万円程度と J A 時代の倍となっている。この理由は、地元の要望を聞き、総菜などの商品開発をしたものや、地元住民（特に高齢者）の協力があるものと思われる。

総菜は非常に評判が良く、開店早々には山野町の重要な会議への弁当注文

7 出典：ふくやまの魅力づくり事業「補助金交付申請書」より引用

を30名分程いただいた。更に地元の農産物生産者約40名ほどのメンバーが毎朝持ってくるということになっており、いつも新鮮な野菜が店頭と並んでいる。また店員、総菜作りを当番制にして大勢で分担、一人一人の負担を軽くして長続きするための工夫をしている。

給料は、時給300円程度のボランティアで運営している状況であり、総菜で使う什器等は各家庭で必要なくなったものを使うなど、経費の削減に随分と苦労している。

またJA山野支店が家賃1年間と電気代半年分の月約10万円ほどを負担するというようになっており、当初の負担は少なくなっている。

図4 キラリやまの店内紹介①



出典：キラリやまの作成

図5 キラリやまの店内紹介②

キラリやまの活動の様子



- 惣菜作りの協力者は、全部で12人です。
- 1班3人の4班にわけて、ローテーション（週に1〜2回）を組んで惣菜をつくります。
- その日作る惣菜メニュー・材料の仕入れ・調理・商品陳列などすべてを当番の班が行います。



7:00 惣菜作り開始

この日は5品作りました！

- ・巻き寿司
- ・いなり寿司
- ・卵の花
- ・カツ丼
- ・揚げ豆腐



パック詰め

パック詰め作業も手馴れてきました。パックにシールを貼って商品完成！



10:30 商品陳列

ようやく全部商品ができあがりました。きれいにならべて…最終チェック！
売れ行きが気になります。

出典：キラリやまの作成

図6 キラリやまの店内紹介③



出典：著者撮影

3-2 問題点と課題

今後も継続して店舗運営をしていくためには、以下の問題点と課題が挙げられる。①利用客数や売上げの一層の増加への努力、②人気の手作り総菜、加工品、地元野菜の種類を増やすための工夫、③今後、買い物に來られない高齢者、遠方の方に、曜日を決めて配達すること、④出荷する農産物の種類と量の把握ができていないこと、⑤午後の客数が少ないので、午後の客数の増加を目指すこと、⑥町外へのPRの実施方法、⑦門田代表の個人事業とみなされているため、至急NPO組織に持っていきたいこと、⑧現在は、家賃や電気代が免除されているが、今後どちらも払う必要ができてくるため経費支払いが大変、などである。

特に、個人事業として12月末で決算をしないといけないが、収益が上がっているため、個人の税金の問題が発生した。あくまでもボランティア組織で運営をしているが、開店まで時間がなかったため個人事業主として届け出しており、矛盾が生じている。

平成18年末に「キラリやまの」門田代表が礼状を出したが以下の内容である。

「師走の風に何となく心せかれる今日この頃ですが、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

「キラリやまの」店 開設につきましては、大変なご指導とご援助をいただいておりますことを、心からお礼申し上げます。「キラリやまの」も開店し4か月が経過しました。

おかげをもちまして、地域の方々の利用も多く、喜んでいただき私たちもやり甲斐を感じております。

過疎化の歯止め、一人暮らしの高齢者の方々への対応等、多くの課

題が山積みしていますが、この活動を通し、地域でつくる店、育てる店として存続するよう未熟ながら頑張る覚悟です。」⁸

8月6日に開店し、それから5か月間を突っ走ってきた女性部の方たちの気持ちと地域の住民への思いがよく表されている文章である。

更に、平成19年2月14日には47名がキラリ研修会として、広島県各地の先進地の、東広島市福富町の「福富物産しゃくなげ館」、東広島市河内町の「そば処さわやか茶屋」、三原市の「道の駅よがんす白竜」、そして府中市の「道の駅クロスロードみつぎ」等に視察に出かけ、良いところを吸収しようとしている。

おわりに

以上「キラリやまの」の立ち上げ前から立ち上げ後を紹介したが、現在このような事例は日本全国にあるものと考えられる。住民パワーで、経験、知識、人脈も何も無いところからボランティアで立ち上げたことは今後の過疎化対策に非常に参考になるのではないだろうか。

まだ開店して1年経っていないため、最終的に利益はまだ未定であるが、現在までの推移を見てみると黒字になるものと思われる。しかしその背後にはJ A山野支店の経費負担、給料の少なさ、ボランティアでの参加ということが挙げられる。

今後このような組織、営業方法で果たしてどの期間続くことができるのか分からないが、このままでは非常に苦しいことには変わらない。ボランティアではなく利益が出る体制作りを構築しないといけないことや、更には売上を伸ばすために山野町だけではなく、近隣市町村から顧客を連れてくる工夫

8 出典：「キラリやまの」メンバー作成の年末挨拶文章より引用

も必要である。

今後しなければいけない課題がたくさんあるが、一つ一つ解決していくことで、長期的に営業が継続していくことができるものと思われる。

今後も継続した関わりを持って見守り続けていきたいと考える。

参考文献

- ・中国新聞 平成 18 年 7 月 27 日号
- ・中国新聞 平成 18 年 8 月 7 日号
- ・中国新聞 平成 19 年 2 月 20 日号
- ・総務省自治行政局過疎対策室 HP
http://www.soumu.go.jp/c-gyousei/2001/kaso/kaso_gaiyo.html
- ・福山市HP <http://www.city.fukuyama.hiroshima.shiseijoho/shisei/mati.xls>
- ・JA福山北地域本部駅家グリーンセンター「グリーン山野店の店舗継続についての報告書」(18.3.26)
- ・「キラリやまの」メンバー作成のPRチラシ
- ・「キラリやまの」メンバー作成の開店案内チラシ
- ・「キラリやまの」メンバー作成の年末挨拶文章
- ・ふくやまの魅力づくり事業 募集要項
- ・ふくやまの魅力づくり事業「補助金交付申請書」